

▶▶▶ 都市農業の多面的機能と持続的発展に関する研究

都市農業の多面的機能に関する認識を 産官学で共有し「社会実装化」の深化を図る

▶ プロジェクトメンバー

○藤田 武弘（観光学部）
岸上 光克（食農総合研究教育センター）
○はプロジェクト代表

▶ 共創相手

JAわかやま（営農経済部）
和歌山市役所（産業交流局・農林水産部）
和歌山県庁（農林水産部・果樹園芸課）

プロジェクトの背景

過年度プロジェクトにおいて、その現代的意義が解明された「農業体験農園」は、都市農業を都市に不可欠な要素として位置づけた「都市農業振興基本法(2015年)」の施行以降、都市農業の多面的機能（地産地消、交流創出、防災、景観創出、環境保全、食農教育）に対する市民理解を醸成するための有効な方策としても関心を集めている。

プロジェクトの目的

和歌山市は、生産緑地地区を「農地等の生産活動により生まれる優れた緑地機能及び多目的保留地機能に着目し、都市計画上、市街化区域内にある農地を保全し、良好なまちづくりを図ろうとするもの」とし追加指定を推奨している。

しかし、農業者は市街化区域内農地を保有する農家が経営存続するための解決策（高額な固定資産税の回避）として生産緑地指定を選択したという面は否めない。都市農業・農地に期待される公益的な役割を持続的に果たしていくためには「自分の代で農業は終わり」式の諦観との相克を超えて次世代に農業・農地を継承することへの使命感と経営のイノベーションに意欲のある農業者を多数育てることが重要となる。

本プロジェクトの目的は、産官学が連携し都市農業の持続的発展をめざす社会実装型研究を進めることである。

プロジェクトの活動内容

連携・協力する内容は、「都市農業に関する研究・技

術・施策の情報交換」、「都市農業の担い手育成・学生への食農教育」、「研究施設・フィールド等の相互利用」、「都市農業の多面的役割への理解促進」等であり、これまでに①研究者・実践者を招聘しての「都市農業研究会」開催、②JAわかやま寄付講義における普及啓発、③「農業体験農園」や「四季の郷公園内・土の農園」の運営改善、等に関わる調査研究に着手している。

プロジェクトの成果

以上の取り組みを土台として、2021年8月には全国初の都市農業振興に資することを目的とした「包括連携協定（都市農業振興のための産官学包括連携協定）」を締結した。

また、連携・協力事項を推進する事務局組織として「和歌山市都市農業振興産官学連携連絡会（和歌山市、JAわかやま、和歌山大学が正規メンバー、和歌山県がオブザーバー参加）」が設置され、定期的の実務者レベルでの意見交換の場が開催されているほか、「第2次和歌山市農業振興基本計画（2022～2026年度）」を「都市農業振興基本法」を受けて地方公共団体が具体化すべき「都市農業振興基本計画（地方計画）」に相当するものとして策定すべく素案検討の段階で上記連携連絡会との意見交換を実施する等の画期的な動きが見られる。

